

暮らしを楽しく快適にするリフォームマガジン

DAIKEN

REFORM MAGAZINE

ダイケンリフォームマガジン



“クローゼット収納”は棚のカスタマイズが大切！ デッドスペースを有効活用しよう

すっきり片付いたお部屋を目指して大掃除をしたはずなのに、気がついたらまた散らかっている……こんな“リバウンド現象”にお悩みの方はいませんか？ これは、お部屋にモノが多だけでなく、整理・収納を上手にできていないことが、リバウンドの原因と考えられます。

収納スペースには限りがありますので、現在の収納のデッドスペースをフル活用して収納力をアップさせる方法をご紹介します。

リバウンドを防いですっきりとした部屋を保つコツ



一念発起してお部屋を片付けても、気づいたらまた散らかっている、部屋のリバウンド現象の理由……それはずばり、整理・収納がきちんとできていないからだと考えられます。

例えば、毎日使うものが床やダイニングテーブルに出しっぱなしになっていませんか？
すぐに使うものだからと目に入る場所に置いたままにしておくと、お部屋は一向に片付きません。

整理・収納の基本は、モノの定位置を決めることです。一つ一つのモノに“住所”を決めて、使い終わったら必ず決まった収納場所に返すことが大切です。

テーブルの上に散らかった小物をまとめる場所は、お盆やお菓子の空き箱でも十分です。
まずはモノの居場所を決めて、同じ場所に戻す癖をつけましょう。

また、新しいモノを買おうと思った時は、必ず部屋のどこに収納するかを決めてから購入するということも大切です。収納場所を決めずにモノを増やすと、行き場をなくして床やテーブルの上に放置されてしまいます。

収納に入りきらないものは買わない。それでも欲しい場合は、古いものを捨てて、収納場所を確保してから購入するようにしましょう。

床の上やテーブルの上など広く平らな場所が片付くと、お部屋の印象もがらりと変わります。カーペットやテーブルクロスなどが映えるので、インテリアの楽しみ方も変わりますよ。

クローゼットをフル活用しよう



お部屋の片付けを始めると、広い収納スペースが欲しくなると思います。好きなだけモノを詰め込める場所があればいいのですが、現実はどうもうまくいきませんよね。

特にマンションは、造り付けのクローゼットや物入れの数も限られています。だからといって棚やタンスを増やしてしまうと、お部屋がどんどん狭くなってしまいます。

たくさん収納するために闇雲にモノを詰め込み、どこに何があるか分からなくなってしまうのもよくある失敗例です。必要なものをサッと取り出せなくなるため、収納スペースを占拠するだけの死蔵品だけが増えてしまい、本当に収納したいものが入れられなくなってしまうのです。

限られた収納のスペースを有効に利用するためには、現在のクローゼットでデッドスペースになっている場所を活用して、収納力をアップさせましょう。

新築マンションのクローゼットは、ハンガーパイプが横に一本設置されていて、その上に棚板が一枚あるものが多いと思われます。このハンガーパイプに洋服を吊るして使用した場合、ハンガーパイプの上や吊るした服の下にデッドスペースができます。このようなデッドスペース部分を活用するだけでも、収納量は格段にアップします。

デッドスペースを有効利用するコツは、スペースを四角く区切るイメージをもつことです。四角く区切ることでモノの居場所を決めやすくなり、整理・収納もうまくいくようになります。



注意点として、市販の引き出し収納やプラスチック収納ケースを大量に使用すると、取り出しにくくなる場合があります、奥にしまったものはそのまま放置されてしまう可能性があります。そのため、引き出しや収納ケースはなるべく使用せず、オープンタイプの収納になるように心がけましょう。

ただ、デッドスペースの隅から隅まで活用できるような、自宅にピッタリのサイズの収納を自力で探したり設置するのはなかなか骨が折れる作業です。

せっかくなら、リフォームで思い通りのクローゼットを作ってはいかがでしょうか。

簡単リフォームで思い通りのクローゼットを作ろう！

便利で使いやすい！衣類やバッグもスッキリ収納。



収納のリフォームを検討するなら、整理収納アドバイザーの意見を取り入れて開発されたDAIKENの収納ユニット『relaclo（リラクロ）』がおすすめです。

棚板やハンガーパイプ、引き出し収納などを自由に組み合わせて、クローゼット内をカスタマイズできる機能的なユニットで、スペースにあわせてぴったりかつ使用目的にあわせてた収納を作り上げることができます。

『relaclo（リラクロ）』はクローゼットの内部に設置するだけでOKなので、リフォームといっても大がかりな工事が必要ないのもうれしいですね。

家族ごとの使用目的にあわせて、使いやすく収納をカスタマイズできるのも魅力です。洋服の種類が多い女性のクローゼットなら、かさばるコートやスカーフは長物エリアに、バッグなどの小物は取り出しやすい棚板に、モンキーハンガーを活用してシャツやスカートは上下に配置し、コーディネートしやすくする、空いた下のスペースは万能スペースとして使用など、エリア別に収納カスタマイズするのはいかがでしょうか。

ハンガーの二重掛けで収納力を2倍にアップ。



※「モンキーハンガー」はケージーバルテック(株)の登録商標です。

また、スーツ類がメインの男性ならスーツやジャケットを掛けられるスペースを多めにとって、モンキーハンガーでスラックスも効率収納。出張用のスーツケースを置けるスペースも確保しておけば出勤時に物を探したり取り出したりして右往左往することはもうなくなるでしょう。



お子さんが独立して物置になってしまった子ども部屋や、使い勝手が悪くて上手に活用できていない押入れなどがある場合は、もっと思い切ったリフォームもおすすめです。空き部屋は、いわば大きなデッドスペースです。ここも『relaclo（リラクロ）』で四角くスペースを区切りながら、おしゃれなウォークインクローゼットに変身させましょう。大収納のウォークインクローゼットがあると、日々の洗濯や季節ごとの衣替えが楽になります。



年季ものの押入れも、既存の枠や壁をそのまま活用して設置できる『hapia（ハピア）クローク収納 アウトセット折戸』を導入することで、ふすまだった押入れをおしゃれな折戸のクローゼットに生まれ変わらせることができますよ。



『relaclo（リラクロ）』は、棚板やハンガーパイプを増やして位置を変えることもできるので、将来ライフスタイルが変化した時もフレキシブルに対応でき、収納グッズを何度も買いなおすより無駄がありません。

きれいに片付いたお部屋を維持できれば、毎日ストレスのない快適な生活がおくれて、いつでも気軽に友人を家に招待することもできます。自分にぴったりの収納を手に入れて、リバウンドのない整理・収納生活を始めてみませんか？

DAIKEN ショールーム

<https://www.daiken.jp/sr/>

※記事掲載時点の情報と、各ショールームの展示製品が異なる場合がございますので、あらかじめ各ショールームにお問い合わせ・ご確認のうえ、ご来館ください。

【DAIKEN リフォームマガジン 2019年11月号掲載】